

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス やさしさいっぱい天神		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月8日		令和8年 1月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23 (回答者数)	19
○従業者評価実施期間	令和7年 12月8日		令和8年 1月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムが固定化されないように工夫されている。	毎月職員会議を行い、活動プログラムを立案している。五領域「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」と関連するようにプログラムを立案している。また、季節に合わせたプログラムを考えるなど、利用児がなるべくさまざまな活動に取り組める機会を提供できるよう工夫している。	投票箱を設置し、何かやりたいことがある児童は紙に書いて提出してもらっている。自己表出ができる機会を提供することで自己肯定感の向上や、自己実現にも繋がる機会となった。今後も利用児の意見を取り入れながらプログラムを企画していく。
2	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解できている。	送迎時や、保護者面談、LINEや電話、連絡帳などを通して、情報共有させていただいている。保護者面談の際には児童発達管理責任者の他、日々の支援にあたっている職員が参加し、事業所での様子や課題を共有したり、学校や家庭での様子など情報をいただいたりしている。	利用児により質の高い支援を行ってけるように、今後も相談支援員や他事業所の職員との情報交換もより一層大事にしていく。また、職員が支援に関する知識・技術を深めていく。
3	定期的に通信やホームページ、SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果がこどもや保護者に対して発信されている。	月に一度、利用児の様子を掲載した(写真付き)通信を発行している。また、SNSでも日々の様子を掲載しており、避難訓練の様子もご覧いただいている。	通信やSNSでは利用児の様子を載せているが、知育玩具の様子など、動画などで個人的にお送りさせていただけたらと考えている。また、療育や支援、児童との関わり方について支援者の目線が発信することも検討していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会が少ない。	慣れた環境(場所、人、音、匂い等)で「安心して過ごすことができる」ということを好む利用児が少なくないということもあり、放課後児童クラブや地域の他の子どもと触れ合う機会を設定できていない状況。	地域の公園に行った際には、他の子どもと触れ合う機会があるため、積極的に触れ合う機会を提供していく。
2	事業所において、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていない。	ご相談があった場合はすぐに時間を設けて、対応に当たっているが、事業所発信の家族支援プログラムや家族等も参加できる研修会等は企画できていない。	プログラムの立案は児童発達支援管理責任者が中心となり、行います。その際、アンケート等によってニーズを把握することで課題の解決に繋げる。また、場合によっては外部講師や子育てを終えた保護者様を講師としてお招きすることで子育てへの不安や悩みを解決できる機会になればと考えている。
3	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援について改善が必要。	保護者同士の交流機会やきょうだい向けのイベントを提供することは事業所の活動や職員について知っていただく機会にもなるため、今後より一層信頼関係を築いていくためにも開催を検討していく。	祝日や長期休暇等の学校休校日を活用して保護者会の開催を検討している。保護者同士の交流やペアレント・トレーニングの機会とすることで保護者の安心感に繋げていけたらと考えている。また、保護者と良い関係は利用児の新しい情報を得ることや、より良い支援計画を作成することに繋がるため保護者会の開催を検討している。